

郷土の歴史を  
新得町郷土研究会が  
ご紹介し  
一緒に  
歴史の散歩に  
出掛けましょう

とく  
ん歩  
し歴史  
散

No.16

旧福山小学校

旧福山小学校は明治41年(1908)6月1日、字新得西6線98番地に新得尋常小学校(現福山小学校)として開校しました。

開校当時の校舎は、新得市街と旧狩勝トネル工事現場を最短距離で結ぶ山道が、ペンケシント川の沢筋の尾根伝いに付けられていたことに由来しています。この沢筋を含む福山地区がこの当時「福山」と呼ばれていました。

福山地区は、明治39年(1906)に福島県北会津郡湊村静湯から渡辺栄三郎を団長とする15戸が最初に入植しました。翌明治40年(1907)に石狩国美深村から古川金次郎ら2戸が、明治41年(1908)には福島県大槻村字中から佐藤寿、林長七が団長となって16戸が入植し、人口が増加したため学校開設に至ったのです。



奥に見えるのが福山小学校

その後地名改称の要望が強まり、たまたま開拓地の視察に訪れた当時の横瀬農夫也河西支庁長から、入植者の出身地の福島県と山形県の名を取り「福山」としてはどうかとの話があり、そのとおり決定されたと言われています。

大正5年(1916)に福山教育所となり、翌大正6年(1917)に福山尋常小学校に昇格しました。戦後の昭和22年(1947)に福山小学校と改称されました。

昭和24年(1949)に字新得西6線91番地(現狩勝牧場事務所の東側)に新校舎が完成しましたが、昭和30年代に入ると離農が相次ぎ、昭和41年3月31日をもって新得小学校へ統合となりました。

ここには、平成20年(2008)11月に新得町教育委員会と新得町郷土研究会により史跡標柱が立てられています。

町長室から  
こんにちは

新得町長 浜田正利

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、昨年は大変な苦労を重ねながらも何とか乗り切った一年だったのではないのでしょうか。今年こそは良い年にと強い思いを込め、新しい年を迎えられたと推察しております。

新年早々、堅い話で恐縮ですが、昨年の出来事の中で、本年対応が必要になってくることを3点報告させていただきます。

1点目は、台風からの復旧・復興の見通しですが、公共施設の被災箇所339カ所のうち復旧完了または工事発注済が27カ所となっています。残りの箇所は復旧方法を検討中で、完了時期は未定であります。なお、断水の原因になりました上水道水源地については、現在地で復旧していくことが最良と判断しました。条件が整った次第に着手し、平成29年度中に完了をしたいと思っております。また、上水道水源の補完的な位置づけとして、地下水利用の調査も進めており、今後の方向性が判



明次第お知らせをします。

2点目は、清水町で12月16日に発生しました鳥インフルエンザは、新得町は発生場所から10km圏内にあることから様々な対応が求められ、鳥の移動制限と道路3カ所での消毒作業を実施してきました。対応は早くても今月10日頃まで必要ですが、一刻も早く日常生活に戻れるよう願っています。なお、身近で鳥の死骸を見つけたら直ちに役場に連絡願います。

3点目は、JR北海道の鉄道の問題です。台風により4カ月近く不通になっていたトマム〜芽室間が再開し、新得駅にも大勢の人が戻ってきました。早期の復旧にご尽力いただいた関係者の皆さんに感謝申し上げます。その反面、新得から富良野方面は台風被害の後、手つかずの状態、不通となったままです。また、JR北海道は経営の厳しさから「会社単独では維持することが困難な線区」として「バス等への転換」の方針を発表しました。本町は、明治40年(1907年)9月8日に旧根室本線が開通した以降、「国鉄の町・鉄道の町」として発展してきました。今までは有るのが当たり前だった鉄路が、廃止方針という問題に直面していることに対し、皆さんのご意見を踏まえ対応を決めていかなければならないと考えております。

平成29年度予算編成作業を進めています。災害関連予算が中心にならざるを得ない状況にあります。そうした中でも次に繋がる予算措置をしていきたいと考えております。

今年もよろしくお願いたします。

広報モニターからの声

広報モニターさんから「広報しんとく12月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

▼毎回、子ども議会の特集を楽しみに拝見させていただいています。率直な意見や、われわれ大人以上に調べた上での質問など目を見張るものばかりです。

町といった個人を超えた枠組みを考え取り組む、とても良い企画だと思います。

▼子どもの学力、学習状況については、とても素晴らしい結果だと思います。昨年度も特に中学生の成績が良かった記憶があります。学校や塾の先生方の努力もさることながら、少人数の町だからできるきめ細かい教育の結果なのだと思います。

▼うっかりしてしまう師走。広報誌に年末年始の営業日をまとめて掲載していただき、とても助かります。欲をいえばガソリンスタンドも入れていただけたら嬉しいです。

▼東京オリンピック開催に向けて、外国人観光客の増加が考えられ、外国人観光客受け入れ研修会はとても必要な会だと思えます。今後も観光業者のみならず、町民一人ひとりも他国の方々を迎え入れる心構えや対応を考えていくと同時に、差別や偏見を見直す良い機会になればいいと思います。

▼子ども議会について私見ですが、災

害に備えて節水の日はとってもいいアイデアだと思います。「災害に備えましょう」と言葉で言っても実感湧きません。年一度、町民全員で取り組んでも面白いかもしれません。

ひよこの手話講座

No.29

○何・じいちゃん



右手人差し指を胸の前で振る

○〜か?



右手の平を差し出す

短歌

新得短歌会

- 辛くても甘いことばに流されず  
今日も呑気に流れていくさ  
岡田御狸裸
- 暖をとりゆかに鳴く蝻  
姿見せずも寒さしのびる  
小野 恭子
- 立ち寄りし薪ストーブの温もりに  
人の優しさほつほつ伝う  
高橋 幸子
- 年の瀬を迎え一作為さむかな  
流石今更ら迷い少なし  
小関 白潮
- 瞳孔の開かれし眼に星降るごと  
光のレーザー 5分の手術  
小野 洋子
- 鉄の道復興急ぐ夕暮れに  
スーパームーンの明かりが届く  
荒木 風月
- 悔いること何もなければ窓みがく  
鉢のみどりのメロディーとなり  
中井由利子
- 目が覚めた!朝の光に喜びを  
素直に感じて生きていくこと  
菊地 康雄

俳句

新得俳句同好会

- 川涸れて鹿の一团対岸へ  
片桐 波月
- 大夫像に夕日の早き寒波かな  
袴田ゆき男
- 雪のせて路線バスゆく過疎の村  
八木 育子
- カラオケで個性あふれる忘年会  
渡辺アヤ子
- 見通しの解らぬ齡暮れ迫る  
月井 悠峰
- 未枯れや湖面に鳥の二羽三羽  
高橋 民女
- 被害地の雪に覆われ苦しそう  
大崎かずお
- 庭の雪見惚れる隙に涎落ち  
奇藤 青苔
- 平凡な余生しみじみおでん鍋  
中島 土方